

ON AIR

NO. **120**

放送大学通信 オン・エア

発行月 2015年12月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)



体系的に学ぶ

2016年カリキュラム改正のねらいと体系的学習

2016年4月から放送大学の学部カリキュラムが改正されます。16年以降入学の新入生だけではなく、すでに在籍している学生も、「希望すれば」新カリキュラム（以下、新カリ）の適用を受けて卒業ができるようになります。そのために、まず、新カリが目指すところと、新カリが工夫した体系的に学ぶことを助ける仕組みについて解説をします。

放送大学では生涯学習としての教養教育を、遠隔教育として提供しています。そのために放送大学では、学生の年齢、職業、学歴、居住地、どれ一つを取ってみても、大きな多様性があります。人生のそれぞれの段階で、人生をより充実したものにするために学習をすることにおいて放送大学生の学習目的は共通していますが、初めて学士の学位を取得することを目的とする人、すでに学位を持っていて、一度学んだ学問のリカレントを目的とする人、あるいは違う学問の体系的習得を目的とする人、自由な知識としての教養の向上を目的とする人等々、放送大学で学ぶ目的は実に多様です。今回のカリ改正の基本はこのような学習目的の多様性に応じた学習設計を容易にすることにあります。

大きな変更点として、外国語の履修を含む卒業要件を単純化しました。これは一人一人の学生が自分の学習目的に合わせた学習を行うことを容易にします。コースの中を細分し、伝統的学問分野に対応する「系」を軸に、研究対象や方法の類似した学問の体系

CONTENTS

特集：体系的に学ぶ	1
学習センター所長座談会	7
面接授業紹介	11
研究室だより	14
学習センターだより	15
2016年度開設・改訂科目紹介	16
インフォメーション	20



放送大学副学長
來生 新

的学習ができるように科目区分を変更し、ナンバリングを施したの

は、初めて大学で学ぶ人、リカレント目的や新たな学問分野の修得に挑戦する人の学習を容易にするためです。またこれは学際的な視点の形成にも有益な情報となります。卒業要件に、他コース開設の科目の履修を必ず行う工夫をし、総合科目という区分を現行カリキュラム（以下、現カリ）から継承したのは、現カリの長所である複眼的視点での学際的学習を行うという意味での、教養の深化・向上を確保するための措置です。

新カリでは、学生諸君はそれぞれの目的に沿ってカリキュラムツリー上での「縦のライン」での体系的学習にウェイトを置くか、学問領域横断的に「横の広がり」を重視した学習を行うかの学習設計をより容易に行えるようになります。知識の積み上げによる体系的学習が必要か、一つ一つの科目が相対的に独立性の強いものであるかは、学問領域や科目によって異なります。前者については体系性を意識した履修が学習の効率性を高めるでしょうし、後者についても教える側が科目のナンバリングをどのように施しているかを意識することは、学習の効率性を高めることに役立ちます。

学生の皆さんがそれぞれの学習目的や学習の進展状況に合わせて、新カリへの移行をするかどうかを慎重に考慮して、賢明な選択をすることを期待します。



新カリキュラムって どこが変わるの？

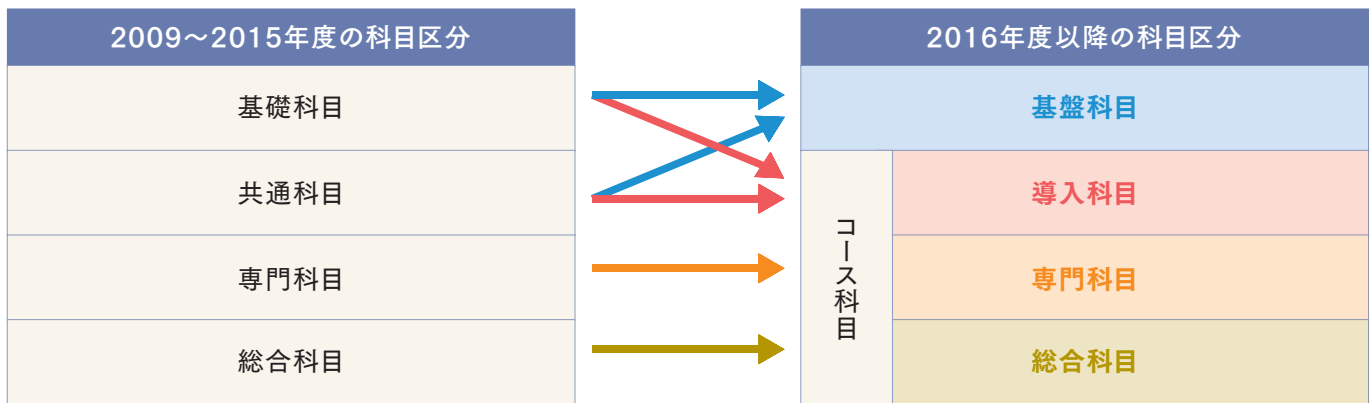
放送大学は、教養学部のカリキュラム全体を見直し、本学の多様な学生ニーズに対応した新カリキュラムによる教育を2016年度から開始します。この改正の目的は、「教育の体系化」と「卒業要件の単純化」の二つです。新カリキュラムは2016年度入学生からの適用されますが、現在、全科履修生として在籍している方も、希望することで新カリキュラムの適用を受けることが可能です。ここではその概要をお伝えいたします。

Q 科目区分ってどう変わるの？

1. 「基盤科目」と「コース科目(導入科目・専門科目・総合科目)」の2区分とします。

卒業要件にかかわる科目区分を現在の「基礎科目」「共通科目」「専門科目」「総合科目」の4つから、「基盤科目」と「コース科目(導入科目・専門科目・総合科目)」の2区分とします。

現行カリキュラムの授業科目区分と新カリキュラムの科目区分の関係



新カリキュラムのそれぞれの科目区分の名称と到達目標

区分	目標	
基盤科目	放送大学のすべてのコースにおける学習をするために必要となる基礎的な能力あるいはリテラシーを身に付けること。あわせて放送大学で学習することの魅力を知り、学習への意欲を一層強めるために、今日の社会における教養の意義、放送大学における教育の体系、生涯学習についての理解を深めること。	
コース科目	導入科目	各コースで開設される科目を効率的に学習するために、コースを構成する各学問領域の導入的知識及びそこで求められる基礎的な能力を身に付けること。
	専門科目	導入における各学問領域の基礎的な知識、能力の修得を前提にして、それをさらに深め、各コースの学問分野についての、専門的な知識、分析手法、思考方法を身に付けること。
	総合科目	学際的な知識、分析手法を身に付け、複数の学問領域から異なる視点に立つ分析を通じて、単一の学問領域内での学習を超えた、教養学部ならではの複眼的な視点を養うこと。

2. 授業科目に番号がつきます。(ナンバリング制の導入)

授業科目に学修の段階や順序の目安となる番号(ナンバリング)が表示されます。これにより学問体系のつながりがわかりやすくなります。

ナンバリングレベル表示	初級(10)	中級(20)	上級(30)
総合科目(400)	410	420	430
専門科目(300)	310	320	330
導入科目(200)	210	220	230
基盤科目(100)	110	120	130

Q 卒業要件は変わるの？

学生による科目選択の可能性を広げるため、変更になります。

基盤科目から14単位以上、コース科目(導入科目・専門科目・総合科目)から76単位以上の修得を要件とすることで、学生の自由な科目選択の可能性を増大しました。外国語科目は基盤科目に含まれますが、現行カリキュラムの卒業要件である6単位以上の履修要件を緩和し、2単位以上の履修に改めました。

現行の卒業要件

科目区分	修得すべき最低単位数(計124単位)
基礎科目	8単位
外国語科目	6単位
共通科目	8単位
専門科目	30単位
所属コース	30単位
他コース	60単位
総合科目	4単位
	34単位

新しい卒業要件

科目区分	修得すべき最低単位数(計124単位)
基盤科目	14単位
外国語科目	2単位
導入科目	76単位
専門科目	34単位
自コース開設	34単位
他コース開設	4単位
総合科目	4単位
	34単位

※授業形態(放送授業、面接授業)に係る要件は以下のとおりです。

・総計124単位=94単位(放送授業)+20単位(面接授業又はオンライン授業)+10単位(授業形態を問わず)

※卒業研究6単位を習得した場合、所属するコースの専門科目6単位(放送、面接授業それぞれ3単位)として認定されます。

Q 私も新カリキュラムに移行できるの？

所定の手続きにより新カリキュラムの適用を受けることができます。

カリキュラム改正は2016年4月1日から適用されますが、2015年度以前に全科履修生として入学し、引き続き在学している方で、新カリキュラムの適用を希望する方は、所定の手続きにより2016年新カリキュラムの適用を受けることができます。新カリキュラムへの移行手続きについては、11月に送付した通知のほか放送大学のホームページをご覧ください。

2016年度カリキュラム改正について、より詳しい内容はホームページにて http://www.ouj.ac.jp/hp/gakubu/saihen_h28.html



新カリキュラムを 生かした学び方って？

学生の皆様が学んでいく上で、放送大学では様々な学びのための目標となる制度があります。体系的な学びを応援する新しい科目区分や番号(ナンバリング制)を活用して、あなたの学びをより意味あるものにしてください。

目標をもって学ぶ

放送大学の学生は、年齢も立場も入学の目的もさまざまです。「若い頃に進学できなかった大学をきちんと卒業したい」「興味のある分野を深く学びたい」「資格を取得して仕事に活かしたい」「好きな科目だけ学びたい」など、学生が放送大学で学ぶ目的は多様だということを踏まえて放送大学のカリキュラムは編成されています。

そこで大切なことは、なにを学ぶのか、どんな力を身につけたいのか、つまり「目的と目標」を明確にして学ぶことです。学び方は、目的と目標によって違ってきます。

多くの大学の学生は自分の専門は「生物学です」とか「工学です」とか「経済学です」と答えますが、教養学部生である放送大学の学生のなかには、自分の専門が何か明確に答えられないという例が少なくありません。しかし、学ぶ目的と目標がしっかりしていれば、「自分は何を学んだのか」をきちんと表現できるはずですし、そうやってほしいと思います。

新カリキュラムへの移行によって、体系的学習を進めやすくなりました。一方、選科履修生や科目履修生とし

て、興味のある科目だけを履修することもできます。生涯学習として、あるいはキャリアアップや資格取得のため、社会貢献のために学ぶことができます。放送大学エキスパート(科目群履修認証制度)のなかから、目標とするプランを決めて履修するという方法もあります。



放送大学副学長
宮本 みち子

さて、科目を履修することで一通りの知識を身につけることができるかもしれませんが、どうしても受動的な学びになりがちで応用力が身につきません。そこで、自分の研究テーマを掲げて研究をし、目的に応えるレポートにまとめるという段階があります。これが卒業研究です。

卒業研究を進めるということは、資料・データを収集する、分析する、指導教員やゼミの仲間と意見交換する、レポートの執筆、発表というステップを踏むことです。卒業研究によってはじめて「能動的な学び」の意味を味わうことができます。卒論に取り組むためには、探求したいテーマをもつことが第一歩です。卒論研究の醍醐味を知って、修士課程へと進学する人も少なくありません。

みなさんの奮闘を期待しています。

学びの 目標 ①

卒業研究を履修しよう (対象:教養学部全科履修生)

卒業研究は、年間を通して教員から直接指導を受ける特別な授業です。受講者は研究者としての能動的な姿勢が要求されます。大学院を目指す人はもちろんのこと、自分の学びの集大成として受講をおすすめします。

卒業研究とは？

- **選択科目**
全科履修生が履修できる選択科目です。(履修しなくても卒業できます)
- **通年科目**
履修期間は4月から1年間です。
- **6単位修得**
合格すると所属するコースの専門科目6単位(放送、面接授業それぞれ3単位)として認定されます。
- **直接指導**
指導教員から直接指導をうけ、「卒業研究報告書」を作成します。

履修するには？

- **前年に申請が必要です**
履修前年の8月に申請書を提出します。申請書には研究テーマ、履修の動機、履修計画などを書く必要があるため、事前の準備が必要です。
- **申請条件**
①全科履修生として2年以上在籍していること
②62単位以上修得済みであること
※編入者は在籍期間に別途条件があります。「卒業研究履修の手引」をご確認ください。
- **申請書の審査があります**
審査のうえ履修を認められれば、履修可能となります。

申請～履修の流れ（色字は学生の日程）

履修前年度	6月～	各学習センターにて卒業研究ガイダンスを実施 「卒業研究履修の手引」を入手 申請書作成等に向けて質問票の活用、必要な面談を所定の時期に行う
	8月下旬	卒業研究申請書の提出 申請書を各コースで審査
	11月中旬	履修可否仮決定通知の送付
	1月中旬	履修可否決定通知の送付
履修年度	2月～3月	科目登録・授業料納入を行う
	4月上旬	履修許可決定通知の発送
	4月中旬～	教員からの連絡により履修開始
	11月初旬	卒業研究報告書(論文)の提出
	12月～	論文審査・面接審査
	2月下旬	成績結果通知

詳しくは「卒業研究履修の手引」「卒業研究履修の手引(別冊)」をご確認ください。毎年6月に最新版を各学習センターで入手できます。また、キャンパスネットワークホームページでも確認することができるほか、過去の卒業研究報告書のテーマや、一部の報告書については全文を閲覧することができます。

卒業研究について、より詳しい内容はキャンパスネットワークホームページにて <http://www.campus.ouj.ac.jp/ouj/login/index.htm>

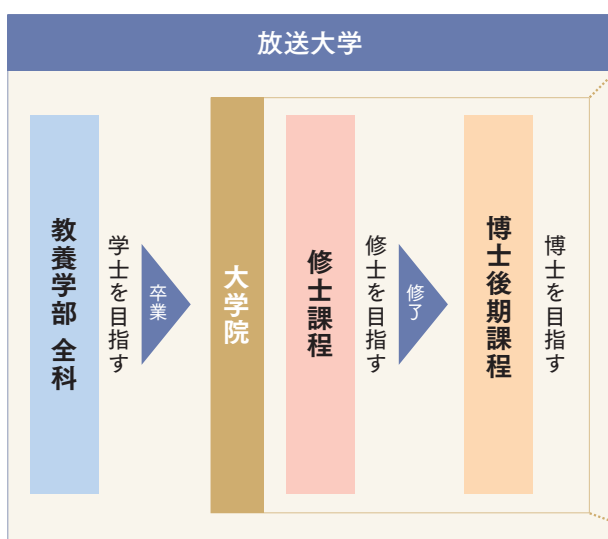
学びの
目標

②

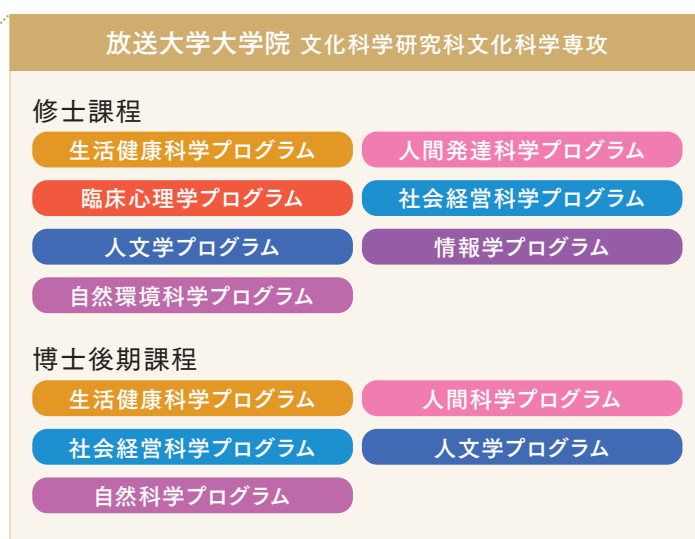
大学院を目指す（対象：教養学部全科履修生）

大学院は、学部課程の上に設けられ、学部を卒業した人、およびこれと同等以上の学力を有すると認められた人を対象に、学術の理論と応用について研究する組織です。大学院では放送授業だけでなく、教員による研究指導のもと、修了を目指して学位論文を作成します。学位論文は単に知識を記述するのではなく、独創性が要求されます。学部と比べてより能動的な姿勢が必要とされるのです。それだけに修了して得られる学位は、研究者としての社会的な評価となり得ます。入学には選考がありますが、学部卒業後の目標としてぜひ放送大学大学院を目指してください。

大学院の位置づけと学位取得の流れ



大学院の課程とプログラムについて



大学院について、より詳しい内容はホームページにて <http://www.ouj.ac.jp/hp/gakuin/>

「放送大学エキスパート」認証取得を目指す

(対象：教養学部全科履修生、教養学部選科履修生、教養学部科目履修生)

「科目群履修認証制度(放送大学 エキスパート)」は、放送大学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明する、学校教育法に規定された「履修証明制度」に基づく放送大学独自の制度*です。認証状は、履歴書に記載したり、ボランティア活動等でご提示いただくなど、学生の皆様それぞれの目的にあわせ、広く学習および生活の場で役立てていただきたいと思います。説明資料「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)について～認証取得の手引き～」は、学習センター・サテライトスペースに用意してあります。

*「履修証明制度」の詳細については、文部科学省のホームページにてご確認ください。

全科履修生の方

- 卒業へのステップとして
- 学習計画を立てる際の履修モデルとして
- 学士とは別に特定の専門分野の修得を証明するものとして

選科・科目履修生の方

- 認証状取得を目的として
- ある専門分野を体系的に学ぶ際の道しるべとして

認証状取得までの流れ

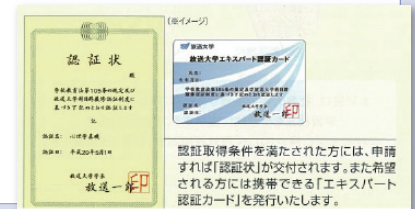
単位修得

認証取得に必要な単位を修得し、
認証取得条件を満たします。
(認証取得のために修得した単位は
卒業単位としても認められます。)

認証状申請

必要な単位を
すべて修得したら、
認証状を申請

認証状取得



27種類のプランから目的にあわせて選択することができます。

平成28年度のプラン一覧

	認証プラン名	認証状の名称		認証プラン名	認証状の名称
1	健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	15	日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会
2	福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	16	宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学
3	社会生活企画プラン	社会企画士	17	生命科学プラン	生命人間科学
4	食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	18	環境科学プラン	環境科学の基礎
5	心理学基礎プラン	心理学基礎	19	社会数学プラン	数学と社会
6	臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	20	エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論
7	社会探究プラン	現代社会の探究	21	芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援
8	市民活動支援プラン	市民政策論	22	歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援
9	実践経営学プラン	経営の理解	23	自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援
10	ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	24	工学基礎プラン	工学基礎
11	次世代育成支援プラン	次世代育成支援	25	人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザイン
12	コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	26	計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎
13	異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	27	地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材
14	アジア研究プラン	アジア研究			

「放送大学エキスパート」について、より詳しい内容はホームページにて <http://www.ouj.ac.jp/hp/gakubu/expert/>

地域社会を生きる



原 純輔 宮城学習センター所長(社会学・行動科学)
上野 達彦 三重学習センター所長(法学・刑法・犯罪学)
菅沼 俊彦 鹿児島学習センター所長(農芸化学・食品製造学)
司会
御厨 貴 教授(政治学・政治史)



(右上)原純輔所長、(右下)菅沼俊彦所長
(左上)御厨貴教授、(左下)上野達彦所長

去る9月9日、宮城・三重・鹿児島の各学習センター所長に放送大学本部にお集まりいただき、御厨先生の司会進行のもと座談会を行いました。テーマは「地域社会を生きる」。各学習センターはそれぞれの地域とどのように関わり、またどのような課題を抱えているのでしょうか。誌上にてお伝えいたします。

※本文中は敬称略とさせていただきます。

三者三様、学習センター風景

御厨 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。地域が偏らないように宮城・三重・鹿児島の学習センターを選ばせていただきました。さっそく始めたいと思います。まず、所長として「地域」をどのように意識されながらセンター運営に当たられておられるのか、簡単な自己紹介・センター紹介を含めながらお話しください。



原純輔所長

原 所長になって7年目です。宮城学習センターは学生数2,000人ほどと中規模ですが、仙台は人口100万を超える大都市です。いくつもカルチャーセンターが

あり、多くの大学や自治体などが公開講座や講演会を開催しています。そんな中、放送大学がどこまで特色を出せるのか—その答えとして私は“歯応えのある教養の提供を”と言い続けています。確かに放送大学の講義はそれらとくらべて難しい。でも歯応えがあり、他では得られない達成感がある。だから“歯応えのある教養の提供を”と。もう一つ、地域との関係性という点ではやはり大震災が大きいですね。何か行事を行うにしても、まず被災地のことを考えます。センターとして何かできないか…そう考えてやってきた中で、何とか形になったのが「放送大学の集い」です。年に4カ所ほど被災地を回り、ミニ講義を行います。第二部として、集まった学生や市民の皆さんと懇談しますが、しばし

ば被災時やその後についての話が出てきます。当初は、こんなことを聞いてもよいのかと迷った場面もありましたが、話しながら自分なりの再生のプログラムを模索しておられるのではないかと、といった手応えのようなものを感じています。

菅沼 所長になって3年目です。鹿児島学習センターに所属する学生は1,800人ほどいます。人口比では全学習センター内3位と自慢しているのではと思いますが、この数字を維持できるか所長としてプレッシャーを感じます。学生が多いのには、鹿児島ならではの事情があります。まず県として一般大学への進学率が低く、経済的事情などで行きたい時に行けなかった方々が“学び直し”の場を放送大学に求められているのではと思います。また、看護師をめざす学生の割合が、他センターと比べて4割と高い。これは、地元の鹿児島中央看護専門学校に准看護師向けの通信制看護科があり、単位の半分を放送大学で履修することになっているからです。地域との関わりで今注力しているのは、奄美です。5年ほど前に再視聴室で面接授業も試験もできるようにりましたが、北海道のようにTV会議システムを導入してもっと学習機会を充実させたいと思っています。この秋からテスト稼働予定です。

上野 私が三重大学の副学長を勤めておりました2004年に国立大学の法人化が行われ、大学の使命に地域貢献が加わりました。以来、地域の様々なことを議論し

て参りましたが、残念ながら、当時、先生方の地域貢献に対する意識は決して高くはなかった。「何をしたらよいか分からない。具体的に言ってくれ」とばかりで…。未だにこの傾向は残っており、所長となって5年目、学習センターにとっての地域貢献とは何かを模索しながら、人の意識を変えることの困難さも同時に感じていました。一方、決して変わらないものが三重にはあります。伊勢神宮です。この存在は大きい。神宮1,300年の歴史は三重人の生活にしきりとなり脈々と息づいています。昨年の式年遷宮は話題になりましたが、他にも様々な祭事が三重の社会に根付いています。つまり、三重学習センターが地域と関わりを持つとすれば、自ずと伊勢神宮をはじめ、伝統文化とどう向き合うかということにつながるのです。

御厨 ありがとうございます。原先生、その「放送大学の集い」は学生の方々が運営を手伝っているのでしょうか。

原 特に学生を組織して、ということはしていませんが、「集い」をきっかけに学生同士で組織化しようという動きはあるようです。ついでに言えば、被災地でのボランティア活動についても学生を組織してということはしませんでした。3.11後の卒業式は中止となり卒業証書は郵送しましたが、中には直接センターに受け取りに来られた方々もいました。その方々のために簡単な卒業式を開いた際に、今までどうされていきましたかと伺いましたら、大半の方々が「ボランティア活動をしていた」と。それほどボランティア活動は市民には当たり前のことになっており、敢えてセンターで何かをやる必要はないな、と判断した次第です。

御厨 菅沼先生のご専門は農芸化学です。鹿児島のからしや社会との接点がおありだと思いますが…。

菅沼 鹿児島大学在任中は、さつま芋を原料とする食品の中で最も付加価値の高い焼酎について研究しておりました。その関係で、県内の醸造会社と焼酎粕を出さない新規焼酎製造法を共同開発したり、県酒造組合の寄付による焼酎学講座創設のお膳立てをしたりと、焼酎業界やでんぶん業界を通して地域と密接に関わるようにしてきました。センター所長になってからも地域性重視は同じで、面接授業「鹿児島湾洋上実習」では鹿児島大学水産学部の練習船で湾に出てプランクトンをサンプリングしたり、「金の考古学」では、江戸時代から続く菱刈鉾山などの金鉾巡りをしたりと地域に密

着した授業を多く開講しています。やはり、現場に出かけてという体験型が人気が高く、県外からも多くの方が参加されています。

御厨 上野先生のところではいかがでしょう。「郷土の～」といった講義はやはり人気が高いですか。伊勢神宮についてはどうでしょう。

上野 三重大学では人文学部の山田雄司教授による「忍者・忍術学」という公開講座を2012年度から続けていて、とても人気が高い。講師が忍者の格好をして教壇に現れたとか…一つのパフォーマンスでしょうが、様々な切り口から伊賀忍者を肯定的に学問として取り上げている。そういう背景があって、学習センターでも県の生涯学習センター主催の「みえアカデミックセミナー」に参加して、客員教授による「食品科学からみた忍者の非常食」という公開講演会をこの夏行ったばかりです。この講演は満席の活況でした。伊勢神宮については、放送大学が特定の宗教に偏ることは憚れます。歴史文化資産として客観的に触れることはあっても、神宮に特化した面接授業は開講していません。

原 宮城でも「伊達家の～」や「東北の～」といった地域性のある面接授業は人気はありますが、冒頭に申し上げたとおり、そういうものはカルチャーセンター等で多く取り上げられています。センターでは、拒否しなくても敢えてそういうものを増やそうとは考えていません。学生の方々も、せっかく大学に入ったのだから大学らしい講義を受けたい、と。

菅沼 鹿児島は大学がそれほど多くありません。特に奄美地区は皆無で、放送大学が唯一の高等教育機関です。そういう背景から、鹿児島では地域に根ざした面接授業にも意義があります。**御厨** そういう地域だからこそサテライトスペースや再視聴室が重大な使命を負っている訳ですね。ところで、奄美も含めて鹿児島は台風銀座と呼ばれる地です。今年は、桜島噴火もありました。

菅沼 一時は大正噴火並みかと専門家によって語られましたが、今は噴火警報レベルが4（避難準備）から3（入山規制）になり収まっています。桜島在住で避難準備対象になった方が2人おられました。また、この夏に台風接近に伴い、フェリーが運航せず試験が受けられないという事態が起きました。3.11では東北の各大学で



菅沼俊彦 所長

安否情報確認が大変だったと聞きます。そういうことも含めて災害時に備えたマニュアル作りを急ぐ予定です。

原 一般の大学ですと年齢が近く若いから、避難方法は一樣でしょうが、そうでない放送大学でどう備えるかは気になるところです。

御厨 自然災害が増えていますからね。年齢層も職歴も様々な人たちにどう対応するのか、全センターの課題です。さて、ここで少し話題を変えて、学生間の交流という点について。学生の中には何度も卒業され、所長よりセンターのことをよく知っておられるベテランの方々がいらっやいます。

■ 難しい同窓会の新陳代謝

菅沼 鹿児島ではサポーター制というものを設けて、ベテランの方5人ほどが学生としての立場から学生の相談に乗っています。

上野 三重でも懇切丁寧に後輩を指導してくれる学生は何人かはいますが、組織化は特にしていません。学生に任せています。

原 仙台では学生の方々が「初歩からのパソコン」のTA役を買って出たり、所属するパソコン・サークルで講習会を開いたり、学生のITリテラシー向上に貢献してくれています。

御厨 同窓会活動はいかがですか。多くの同窓会で会長はずっと同じ人、あるいは一部の人たちだけの持ち回りということが多いようです。

原 それは若い方のリクルートが上手くいっていないからではないでしょうか。本当は高齢だからやめたい。でも、若い人がなかなか入ってくれない。仙台も同様で、同窓会には若い人が入りやすいよう工夫を、と言っているのですが…。それにはお互いが接近して喋り合う機会を作らないと。所長になった当時、卒業式後の祝賀会は、それなりの会費を頂いて椅子・テーブルをきちんと設えたものでした。ところが、若い人の出席はごくわずか。そこで、会費はワンコイン500円にしてカジュアルな立食パーティ風のものに変えたところ、若い人も参加するようになりました。愛知学習センターでは入学年度ごとに同窓会が組織され、学生相談などの支援活動が上手く機能しているとか。若い人にどうやって参加していただくか、一朝一夕にできるものではなく不断の努力が必要だと感じています。

菅沼 鹿児島は、入学式と卒業式を同時に開催し、その後、同窓会主催で祝賀会を、仙台と同じ500円会費で行っています。ところが、ある時ふと気づくと祝賀会に新入生がいない。それもその筈、その同じ時間に新入生オリエンテーションが行われていたのです。そこで2年ほど前からオリエンテーションを前倒しして新入生が祝賀会にも参加できるようにしました。すると同窓会に入る人も増えました。確かに同窓会の新陳代謝が行われぬ、若い人が集まらないことは所長にとって悩ましい問題です。

上野 三重も同じような状況ですが、その会費の問題…教職員も参加する訳ですから、もう少し工夫がいると思います。

御厨 昨年10月に、大阪学習センター恒例の学園祭「河堀祭」にその実行委員会から公開講演会をやってくれと招かれ行きましたが、その盛況ぶりには驚きました。



御厨貴教授

100人超の人が会場に集まり、立ち見席が急遽用意されるほど。そして、待ってましたとかヨイショとか声がかかる。待ちかまえている、という感じで元気いっぱい。テーマは何でもよいと伺っていたのに、すでに決まっており、「大阪は甦るか―過去・現在・未来―」。所長に何うと、黙っていても実行委員会が前面に出て進めてくれるとか。すでに7回目、毎年こうだと。こういうセンターもあるんですね。日曜日でしたので。若い人もお子さん連れで結構いらしていた。若い人対策には学園祭の効用も考えてみてもいいかもしれません。

■ エピソード〈学生vs講師〉と〈学生&講師〉

上野 若い人の問題もありますが…団塊の世代が定年を迎えて地域に戻ってくる、そういう方々をどう受け入れるか、といった議論がありました。でも、思うようにいっていない印象を受けます。まず、なかなか地域に戻って来ない。戻ってもキャリアが邪魔をする。ある方は、これまでの企業活動に誇りを持っておられ、講師の言っていることの方がおかしい、と。言われた講師が若い人だと、そんなことはないに向かっていく、なんてこともありました。

御厨 年代差がありますからね。片や若く、片や百戦錬磨のつわもの。…こういう経験をしたことを思い出

しました。かつて都立大で教えていた時のこと、2部制でしたから夜は社会人相手に労働問題の歴史とかを講義した訳です。すると聴講者の一人がニタニタしている。で、講義が終わった後にその人、自分は何とかという労組の委員長だった、と。そしてこう続けるのです。「悪いけど、君の言っていることは空理空論だ」。私は30代、一生懸命教えて空理空論だと看破されるなんて、さすがショボンとしましたね。つくづく社会人を教えるのはイヤだ、と。この歳になると何を言われても平気ですが、その若い先生の気持ちも分からないでもない。

原 学生vs講師の話のようですが、仙台では嬉しい話が進んでいます。卒業した学生に来年度から面接授業の講師をお願いすることにしたのです。

御厨 ほう、それは素晴らしい。どういう科目を？

原 県の「食品の安全検査」の仕事に携わっておられる方なので、「食品の安全と消費者の行動」といったものを展開してもらおうかと。受講される学生の方々の反応が今から楽しみです。

御厨 教えられた側が回り巡って教える側に…。こういうことができるのも放送大学の強味かもしれませんね。私も面接授業で地域に出かけますが、1日4コマ、2日で8コマでしょ。カルチャーセンターではだいたい2時間、おいしい話だけしてればいいでしょうが、8コマですから中身が濃くないとすぐ見透かされてしまう。面接授業は教える方も真剣勝負です。その方にはエールを贈りたいと思います。さて、そろそろ時間が迫ってまいりました。最後にお尋ねいたします。18歳人口は減りつつありますが、生涯にわたって学びたいというリカレント教育への需要はますます高まると思われます。そのニーズに応えるために、学習センターとしてどのような工夫が求められているとお考えでしょうか。

生涯教育の担い手として

原 私は面接授業をより充実させていくしかないと思っています。地域貢献が叫ばれて久しいですが、放送だけではない、直接先生と顔を合わせる面接授業こそがいちばんの地域貢献であると考えます。そのため地域貢献として別のことを考えるより、面接授業の場というものをより良くしていくことが大切ではないか、そのことがそのニーズに応える早道ではないか、と。

菅沼 働きながら勉強したいという方々の声に応じて

様々な通信制教育がありますが、面接授業がある、それも年間約3,000科目も、というのは放送大学だけです。これは大切にしなければいけないと私も考えます。加えて… 出口対策と言えいいのでしょうか。鹿児島大学在任中に平成18年から5年間、社会人向けプログラム「鹿児島ルネッサンスアカデミー」を実施して地域起しのリーダー育成を目指すのに関与しました。そして、活動の継続を図ろうと出口のところで同窓会を結成してもらおうとした経験があります。それと同じように放送大学でも、卒業したらそれで終わりではなく、放送大学での“学び”を契機に地域に貢献するという人材育成の成果が示せたらいいなと思います。個別例として、卒業後に地域貢献のNPO活動をされているシニアリーダーの方や「いのちの電話」相談員として活躍されている方もいらっしゃいます。この出口の部分をもっと重視することが、地域貢献に応える一つの解になると思います。

上野 面接授業の内容についての工夫も必要です。通常の大学の講義では理論的な部分が重視され、実利的な部分は後からちょ



上野 達彦 所長

っと付いてくる。三重大学教育学部に面白い先生がいらして、時々NHKにも出演されている方ですが、その方をお願いした面接授業は、あふれんばかりの学生が世代を問わず聴講し大変盛況でした。科目名は「歌上手への道」。つまり、音痴を治すというもので、後で学生に伺ったら、発声の仕組みを説きながらそのためにはこういうふうにと一つ一つ指導してくれたそうです。極端な例かもしれませんが、この面接授業のように理論的な部分に実利的な部分も組み合わせるといった工夫を施せば、面接授業はより魅力的なものになり、より多くの人のニーズに応えられるのではと考えます。

御厨 ありがとうございます。先生方のお話を伺って、地域によって地域特性も学習センターのあり方もいろいろだなと感じました。そして、面接授業を受けられる学習センターが全都道府県に必ず一つはあるという、放送大学の長所を改めて再認識しました。「地域社会を生きる」とは、単に中央が発信するものを受け取るのではなく、それぞれの地域に寄り添いながらそれぞれの独自性を発揮することだと思いました。本日はありがとうございました。

面接授業へのいざない

—地域学習センターいきいき授業—

面接授業は、全国の学習センターで年間約3,000クラスを開講しています。中でもユニークな面接授業をいくつかご紹介します。



全国の面接授業①

北海道学習センター

コミュニケーションの方法

担当講師/久保 隆徳(富良野GROUP)

実施日/2015年10月17日・18日

近年、メールや携帯、SNSなどを通じた人との繋がりが多くなり、言葉や文字に頼る事で、身体的レベルでの関わりをもつ場面が少なくなっているのではないのでしょうか。その為、相手のカラダどころか自分自身の身体的変化に意識がいなくなっています。人間は常にカラダから多くのメッセージを発信しています。それは言葉で語られるよりずっと豊かで深く、そして真実に近いものです。この授業はカラダを使って感じる事を通して学ぶ、ワークショップ形式で進められます。いろんなアクティビティ(活動)を通して、人と繋がる上で何が大切なのかを考え、それぞれの「気づき」や「きっかけ」を得て頂く内容になっています。日頃関わる事のない他の学生さんと一緒にカラダを使いながら授業のカリキュラムを通して、「身体的な関わ

り」の重要性について学んでみませんか。

受講者の感想

「笑」の中で多くを学んだ2日間でした。演劇の基礎練習に使

われる簡単なゲームから始まるグループワークを行いました。何気ない動作にも「発信・受信・想像」が込められており、コミュニケーションは言葉だけではないことを再認識しました。様々な意見交換の中で自分の考えがまとまっていく様子は面接授業でなければ得られないものでした。(原佳子さん)



全国の面接授業②

千葉学習センター

三等船客の太平洋・移民船の頃

担当講師/藤村 是清(神奈川大学非常勤講師)

実施日/2015年10月17日・18日

日本史を世界的な人の移動という視点から眺めます。まずヨーロッパ移民が大西洋を渡る船で寝泊まりしたステアリッジと呼ばれる大部屋空間のイラスト。移民の波は米国東海岸をのみ込んだ後、西海岸に至り、西部の人口が激増した結果、太平洋航路が活発化し、これが日本開国の遠因となるのですが、さらに1867年(維新の前年)には米国が巨大外輪船を太平洋に就航させます。外輪船は一度に1000人も中国人移民を運んだので、香港政府からエミグラントシップと呼ばれたのですが、福沢諭吉や岩倉使節団をサンフランシスコに運んだのもこの移民船だったのです。

このように開国・維新という日本の国際化の深層には、大西洋から太平洋への移民の拡大があったのですから、1867年の坂本龍馬暗殺をもってしても、もはやこの流

れを押しとどめることは不可能だったことを学びます。

受講者の感想

太平洋を横断する大型木造外輪船には明治初めの頃、多くの中国人移民が乗

船していた。三等船客として香港から横浜を経て米・加州桑港を目ざしていた。金景気に沸く彼地に向け、多い時には一船で千人余もの人々を運んだ。当時渡米した福沢諭吉、高橋是清、新島襄は偶々乗合せ、その時の中国人の様相を夫々叙述している。先生が蒐集された統計を元にした解析と先人の観察により、中国人移民の様相がよく理解できた。今日的課題の“難民”に思いを馳せながらの受講でした。(高橋士郎さん)





素粒子で探る宇宙

担当講師/鈴木 洋一郎(東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構特任教授)
実施日/2015年10月17日・18日

我々の周りには、見えない不思議なものが多くあります。目でみることのできないニュートリノとよばれる素粒子は、太陽の中心や超新星の爆発から大量に飛来しています。しかし、物質とほとんど反応しないため、最近までニュートリノに重さがあるかどうかすら分かっていませんでした。この不思議なニュートリノは、最近の研究により、宇宙初期の物質誕生の鍵を握っているのではないかと考えられはじめ、注目を集めています。

もう一つの見えない代表はダークマターです。宇宙全体で、我々の知っている物質、原子分子の5-6倍もあるとされていますが、その正体は謎です。しかも、宇宙の始めに作られたダークマターは、物質を寄せ集め、星や銀河を作る源だったといわれています。ダークマターがなければ、人類も存在していません。しかし、その正体は不明で、我々の全く知らない新しい種

類の素粒子ではないかとされています。この正体を解明しようと、世界中でたくさんの実験が、発見の一番のりを目指しています。

受講者の感想

この科目を選択したときはまだノーベル賞受賞のトピックスはありませんでした。授業のテーマは宇宙と素粒子、ノーベル賞の対象になったニュートリノの質量と、宇宙の解明に必須のもう一つの素粒子、ダークマターの探索についてです。ニュートリノの振動を観測した当の鈴木先生の授業は、物理学の標準理論を替えた歴史に直接触れ、次のXMASS実験でダークマターが観測できれば、又ノーベル賞を期待させる、刺激いっぱいの講義でした。(朴木健五郎さん)



デジタルアーカイブ実践

担当講師/谷 里佐(岐阜女子大学文化創造学部准教授)
実施日/2015年10月17日・18日

デジタルアーカイブとは、文化財、文化遺産をはじめとして、個人の日記、撮りためた写真にいたるまで、幅広いモノ(資料)をデジタル方式で記録し、保存、蓄積し、活用できるようにすることです。有形のモノにとどまらず、無形のモノー春夏秋冬の移りゆく風景や祭祀等の記録も可能としています。授業では、このデジタルアーカイブの理論と各種事例について学び、デジタルアーカイブに必要な各種能力を持つデジタル・アーキビスト資格や、デジタルアーカイブ実践例として、話とその説明資料を組み合わせる「オーラルヒストリー型デジタルアーカイブ」の作成実習を行いました。

オーラルヒストリーとは、個人や組織の経験を聞き取りし、記録を作成し、伝えるものであり、日本では、8世紀頃からの歴史を持ちます。ただ、口述に関する信頼性、不完全性への指摘も常に受け続けており、そ

れらの指摘にデジタルアーカイブがどう対応できるか、についても考察しました。

受講者の感想

デジタルアーカイブ実践として、2日間学ばせていただきました。仕事の書類やデータをまとめるのに役立つかなという程度の考えでしたが、授業を受けて、思っていた以上に深いものだと考えを改めました。資料の収集の仕方にもルールや世界的な指針があり、それらを使ってデジタルアーカイブを行うデジタル・アーキビストという資格もあり…。今回、学んだことを、仕事やプライベートで活用できたらと思います。ありがとうございました。



デジタルアーカイブ作成実習の様子



集団と群集の心理

担当講師/釘原 直樹(大阪大学大学院人間科学研究科教授)
実施日/2015年10月17日・18日

本講義では集団や群集について心理学が明らかにしてきた知見を紹介する。具体的には集団意思決定や社会的手抜きなどの集団パフォーマンスについて説明する。さらにパニックやテロなどの集合行動についても詳しく述べる。このような集合行動は日常的に発生するものではなく、科学的分析の対象とはなりにくい。しかしそのような異常事態においてこそ人間の本性が露わになることが考えられる。「疾風に勁草を知る」という言葉があるが、集合行動が発生するような極限状況は人間の最も本質的と思われる部分、即ち愛や勇気、臆病や利己心等が顕在化する状況とも考えられる。そのために映画や小説などでは繰り返し、このような集合行動に関連したものが取り上げられている。しかし集合行動は心理学や社会学の学問研究領域のなかでは周辺的な領域としてしか扱われていない。本講義では集合行動を研究するた

めの方法(実験室実験、フィールド実験など)についても紹介する。

受講者の感想

面接授業は多くの受講生たちと一緒に、教室で講師の



先生から直接話が聞ける楽しく有意義な時間だ。この『集団と群集の心理』の授業では、私たちの考えや行動が常に、私たちが属している集団(家族、職場、社会、国家等)の影響を強く受けていることを学んだ。そして、普段の日常生活の中でも、大事故や大災害など異常な状況の中でも、集団や群集の言動に翻弄されることなく、自分を見失わずに賢明に行動することの必要性を感じた。(吉田裕行さん)



水循環と環境

担当講師/大上 博基(愛媛大学教授)
実施日/2015年10月17日・18日

山〜里〜海〜大気へと廻る水循環に関する科学的な理解を通じて、私たちの住む地域とインドネシアにおける水田農業と水利用システム、および中央アジアの乾燥地における灌漑農業と水利用システムを例として、2次自然的水循環が環境に与える影響を解説しました。水田は、水を人為的に動かすことで、地表と地中の水の流れと地表から大気への水蒸気の流れをつくります。日本のような湿潤地では、水田の水が地下水を作り、イネと水面が夏の暑さを和らげています。しかし乾燥地では、地下水をつくるのが、塩類化という環境問題を引き起こします。

人々は水とその拠り所をどのような存在として見つめてきたのでしょうか。そしてそこには、どんな考え方や文化が芽生え、定着するようになったのでしょうか。

この授業のまとめとして、自然との調和という観点から水田農業の可能性を探り、水を使う活動の背景に

育まれてきた社会文化的側面を考察しました。

受講者の感想

資料の中で随所に問題提起があり、受講生自らが考え解答する緊張感と達成感があり、意義ある楽しい授業でした。



水環境は自然科学分野ですが、中でも水田農業は文化的、社会科学的側面があり、文学をはじめ、芸術、郷土文化等にわたり学際的の広がりがあることを知りました。また、水田農業の日本の実態とインドネシアの水利用システム、並びに中央アジアの灌漑農業における塩類化の問題等も学びました。現代社会において自然と調和する人間活動の重要性を再認識した、実り多い授業でした。(岡邊正一さん)



良いところ探しの教育・研究をめざして

生活と福祉コース・生活健康科学プログラム 准教授 戸ヶ里 泰典

患者・障害者におけるQuality of Life (QOL:生存・生活・人生の質) とその向上・支援のありかた、医療・看護・福祉系専門支援サービスの質の向上、などが共通のテーマです。除去すべきネガティブな問題を同定するだけではなく、増進・向上させるべきポジティブな要素を探るサルートジェニックアプローチで研究を進めることも共通しています。研究テーマには「脳卒中患者の生活の再構築とストレス関連成長」「ソーシャルマーケティングを活用した子宮頸がん検診受診率向上プログラムの評価」「RIASによる理学療法士-患者コミュニケーションの特徴」「慢性疲労症候群患者のQOL」などが挙げられます。研究方法論としては、社会調査方法論や疫学調査方法論を用いています。2か月に

1度全員参加の研究指導に関するゼミのほか、定期的な方法論の学習会、論文抄読会を開催しています。テーマも背景も一見バラバラですが院生同士は仲が良く競いつつ助け合いつつ研究を行っています。

【学生の声】 私は精神科病棟の看護師をしており、研究テーマは「精神科急性期病棟看護師における心理社会的労働職場特性」です。戸ヶ里先生のゼミに入門(?)し、研究の奥深さに初めて気付きました。ゼミでは指導担当教員の横山先生をはじめ、同期や後輩の院生、OB、OGの方達、TAの先生方と一緒に、遠方の院生はWeb会議で参加し、研究内容や方法論について議論してきました。様々な方達より多様な視点の意見を頂き、毎回発見と驚きの連続です。厳しい意見もありますが、全員が議論しあえて笑いあえる雰囲気です。ゼミの後の懇親会も楽しみの一つです。戸ヶ里先生のゼミで学べているのは人生の大きな収穫です。(小杉英之)

2か月に

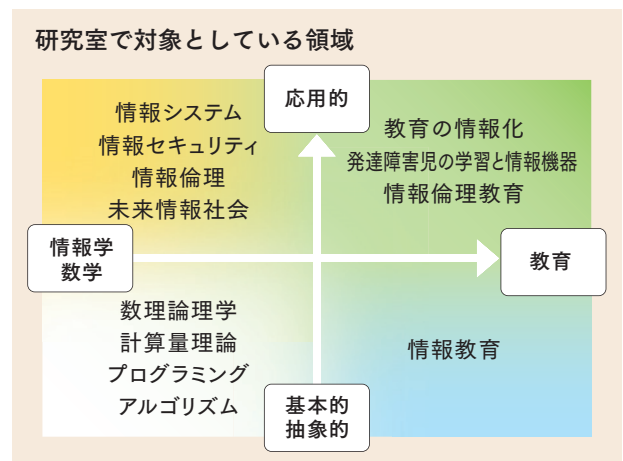


大学院ゼミのメンバーと

情報・数学・教育・倫理をまたぐ研究

情報コース・情報学プログラム 准教授 辰己 丈夫

コンピュータが日常生活でよく用いられるようになってきてから、私たちの生活は大きく変化してきました。その変化はいろいろな側面で観察できるのですが、私は特に、情報科学と数学と教育の側面からみています。現在、私のゼミでは、情報専門技術の教育に関する研究と、高校生の情報活動に関する研究、そして、情報システムの調達に関する研究などが行なわれています。私自身は、次の領域の研究に興味・関心があります。まず、情報数学と情報科学(数理論理学、定理自動証明、コンピュータサイエンス、プログラミング、アルゴリズム)については、コンピュータの動作の仕組みや、その根本原理に関する数学的な側面に関する研究です。また、情報システムと情報セキュリティ(サーバの運用、ネットワークインフラ、データ改変対策、セキュリティポリシー)という領域は、出来上がった情報システムを安全かつ安心して動かすために必要な考え方や背景に関わっています。その中でも特に、情報倫理、情報



倫理の教育法(ジレンマ、情報社会などの学習法)や、情報教育を担当する者のための教育法なども重要です。数学教育や理科教育、音楽教育における情報機器の活用にも興味があります。他に、教育における情報機器の活用(学校Webサイト、発達障害児教育での情報機器活用)の研究や、未来の情報環境、未来の情報教育と、コンピュータの歴史、論理学の歴史についての研究もしています。

栃木学習センター

栃木県宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス内) 〒321-0943
JR宇都宮駅西口からバス約15分 電話:028-632-0572

面接授業(日光戦場ヶ原と周辺の植生動態)

栃木県は周囲に海はありませんが、宅地8%に対して森林55%、農地20%、河川水路5%など、豊かな自然に恵まれています。有名な宇都宮の餃子だけでなく、お米も野菜もとても美味しいところです。本学習センターの面接授業のひとつに日光の自然を探索する授業がありますが、全国から数多くの学生が参加しています。

栃木学習センターは平成7年に宇都宮大学峰キャンパス構内に開設されました。今年度は開設20周年

の節目の年にあたるため、10月3日に記念式典を挙行了しました。

現在約1,000名の学生が在籍しており、所長のほか職員8名がチーム



ワークの良さと親切な対応を motto に笑顔で接しています。学生のサークル活動においては、心理学、英語、中国語、情報、



テニス、ボウリング、ハイキング、なし狩り、所長とランチなどさまざまな活動が企画されています。とくに、「所長とランチ」は、学生のさまざまな要望を知ることができる貴重な場となっています。また、8名の客員教員が学習相談、特別ゼミを担当して学生の学習をサポートするとともに、各地域での公開講座を担当して地域貢献をすすめています。学習センターの魅力を高めるために、今年度は所長表彰(生涯学習奨励賞)を新たに制定しました。来年は文化祭の立ち上げに向けて働きかけたいと考えています。

第5回を迎えた「所長とランチ」風景

兵庫学習センター

兵庫県神戸市灘区六甲台町2-1(神戸大学六甲台キャンパス内) 〒657-8501
阪急六甲駅からバス約11分 電話:078-805-0052

兵庫学習センターはいくつかある神戸大学キャンパスのうち、六甲台キャンパスにあります。視界を遮るものが一切無い、大阪湾が一望できる高台(海拔160m)のため、眼下に広がるすばらしい眺めが、勉学に励む学生の疲れを癒してくれます。兵庫学習

センターがある建物階下には大学生協の食堂、レストランと購買部が入っており、学生にとっては申し分ない学習環境となっています(神戸市第18回景観・ポイント賞受賞)。

現在学部1,800名弱、大学院100名余合わせて約1,900名の学

生が兵庫学習センターで学んでいます。

兵庫学習センターには6名の客員教員がおられ、学生の学習相談に応じたり、特別ゼミを開講したりしています。特別ゼミは所長と客員教員によりそれ

ぞれ毎月1回開催されておりますが、毎回学生が熱心に受講しておられます。

面接授業は各コースバランスよく開講されています。地域に密着した科目やユニークな科目も開講されています。これまでに、灘の酒を題材とした「美味しい兵庫の酒の造り方」があり好評を博しました。

またサークルは運動系、音楽系、歴史系等17あります。センター閉所時間ぎりぎりまで議論が繰り広げられるサークルもあり、活発に活動しています。同窓会は今年度より兵庫同窓会から兵庫学友・同窓会へと名称変更し、新たなスタートを切りました。

スタッフ一同兵庫学習センターの一層の充実に努めてまいりたいと思います。



平成26年度学生研修旅行

学習センター外観

情報学へのとびら('16) 基盤科目

放送大学教授 かとう ひろし **加藤 浩** (情報)
 放送大学准教授 おおにし ひとし **大西 仁** (情報)

現代の日本は高度情報化社会といわれますが、その恩恵を享受し、より良く生きるためには、情報リテラシーは必須です。本科目は大学生として最低限知っておくべき情報リテラシーの知識面をカバーします。放送大学の学生には中学高校で情報教育を受ける機会がなかった方も多いためです。そういう方やコンピュータや情報機器が苦手な、これまで避けて通ってきたような人にこそ本科目を履修していただきたいと思います。また、高校で情報を学んで来た人にとっても、高校よりも

深い知識が学べます。一方、ある程度情報について学んだ方にとっては、本科目は情報コースのショーケースともいえるものであり、専門科目を選ぶ際の助けとなるでしょう。本科目で興味を持った内容に関連する専門科目を履修して、学習を深めることができます。なお、情報リテラシーは知識と技能が両輪です。技能面を学ぶためには「遠隔教育のためのパソコン活用」や情報関係の面接授業を併せて履修されることをお勧めします。



加藤浩教授



大西仁准教授

生活経済学('16) 導入科目

埼玉大学教授 しげかわ じゅんこ **重川 純子**
 (放送大学客員教授)

この科目では、生活の中で行っている経済活動について取り上げます。私たちは生活に必要なものやサービスの多くを貨幣を媒介とする市場を通じて入手しています。使用できる貨幣量が同じでも、社会保障制度や公共サービス、家事労働やボランティア活動などの無償労働などにより、生活のありかたは異なります。授業では、まず、経済社会における家計の位置づけ、家計に関する基本概念、家計実態把握のために用いる家計統計について概説します。家計統計等を資料に、賃金や消

費、貯蓄、負債に関する実態や関係する制度等について取り上げます。また、個人に焦点をあて、夫と妻、親と子といった家族の中の経済関係の実態や意識を概観し、課題を考えます。最終章では、生活の経済活動に関わる教育が推進される背景と教育の内容を取り上げています。授業を通して、自分自身の家計管理や生活設計を考えるとともに、社会保障制度やその他の生活経済に関する制度や仕組みのあり方について考えていただければと思います。



重川純子客員教授

社会福祉への招待('16) 導入科目

日本女子大学名誉教授 いわた まさみ **岩田 正美**
 (放送大学客員教授)

皆さんは、すでに社会福祉という「世界」に何らかの形で触れており、社会福祉について、それなりの「意見」をもっているでしょう。社会福祉が私たちの日常生活に根ざしている証拠です。しかし、こうした私たちの「意見」は、とすれば、その断片的な体験やマスメディアの影響に左右されがちです。

今回新たに始まる「社会福祉への招待」という科目は、「社会福祉という世界」が20世紀を通して多くの先進国で模索され、歴史的に形成された具体的な政

策や事業活動を意味していることを前提にしています。同時に、何を「福祉」のゴールとするかは様々な考え方の変遷があり、その具体的手法もさまざまであることを理解することに重点をおいています。また社会福祉で用いられている基本概念を正確に把握するとともに、多様な社会福祉の考え方に触れ、社会福祉が「決まったもの」ではなく私たちが「創り上げ」「創りかえることができる」ものであることを理解していく一助としたいと願っています。



岩田正美客員教授

西洋哲学の起源('16) 導入科目

上智大学教授 (放送大学客員教授) おぎの ひろゆき 荻野 弘之
 筑波大学教授 (放送大学客員教授) くわばら なおき 桑原 直己



荻野弘之 客員教授



桑原直己 客員教授

この科目は、紀元前6世紀初頭からローマ帝政時代にかけての西洋古代哲学(第1-8回、担当荻野)と、その遺産をキリスト教との融合によって発展させた中世哲学(第9-15回、担当桑原)の概説から構成されています。

哲学という独特な知の形態が生まれたのは、五輪競技(オリンピック)や民主政治(デモクラシー)と並んで、古代ギリシアでした。またパレスチナに発する一神教の伝統は、西洋哲学の展開にとって決定的な影響を与えました。哲学で用いられる様々な用語や発想の多くは、

この時期に誕生し、変容を重ねて近代以降の西洋思想に流れ込んでいます。

哲学を本格的に学ぶために、その歴史的な奥行きを知り、様々なものの考え方や基礎概念に親しむことは、大切な基礎工事です。最初は少し難しく感じるかもしれませんが、古代・中世の哲学者や思想家の言葉にふれて、私たちが自分自身で深く物事を考えるための貴重なヒントをいくつも発見するでしょう。

社会保険のしくみと改革課題('16) 専門科目

放送大学客員教授 たなか こうたろう 田中 耕太郎



田中耕太郎 客員教授

社会保険とは、19世紀末にドイツで創設され、今日では日本を含めて世界各国で普及している医療保険、労災保険、雇用(失業)保険、年金保険、そして最近になって制度化された介護保険の5つの部門をいいます。戦後、各国で福祉国家を作り上げていく過程で飛躍的に充実し、社会保障制度の中核として、国民生活に深く根を下ろしています。しかし、言葉は聞いたことがあっても複雑で難しそうな印象をお持ちの方も多いかと思います。この講義では、まず、これら社会保険の

各制度の具体的なしくみについて共通の枠組みに基づいて体系的に学習し、その基本構造の特徴や理由を理解します。その上で、少子高齢化の進展、雇用の多様化・不安定化、国の財政事情の悪化など、現在直面している課題と、その改革に向けての処方せんや選択肢について、ご一緒に学んでいきます。医療や年金、介護など、これからの制度のあり方について考えてみたいとお考えの方は、どうぞ積極的に受講してみてください。お待ちしております。

東アジアの政治社会と国際関係('16) 専門科目

敬愛大学教授 (放送大学客員教授) いえちか りょうこ 家近 亮子
 東京大学教授 (放送大学客員教授) かわしま しん 川島 真



家近亮子 客員教授



川島真 客員教授

ここでは、日本が所属する東アジアの政治と社会の現状をグローバルな視点から解説します。扱う国と地域は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国、北朝鮮ですが、日本に関してもその関係性の中で述べていきます。

東アジアは、国別GDPが2位と3位の中国と日本、そして世界30位以内に入る韓国、台湾などで構成され、世界有数の豊かな地域です。しかし、その反面二つの分断国家を抱え、歴史認識、領土をめぐる対立もあります。この地域を理解するには、19世紀半ばから国内および

国際的に生じた大きな政治変動を理解し、そして歴史的、国際関係論的視角からその政治世界と政治が作りかえてきた社会の変容を把握する必要があります。

本講義の目的は、各国、各地域がどのような政治変動を経て、また如何なる国際環境の中で現在の政治社会を作り上げてきたかを理解することにあります。そのことは、東アジアの今後の展望を考察する上で必要不可欠な作業になると思います。

経験論から言語哲学へ('16) 専門科目

日本大学教授 せりき のぶまさ 新潟大学准教授 ふるた てつや
(放送大学客員教授) **勢力 尚雅** (放送大学客員准教授) **古田 徹也**



勢力尚雅 客員教授



古田徹也 客員准教授

私たちは、「水に流す」文化をもっています。しかし、社会の諸問題と向き合って解決を図っていくときには、「経験から学ぶ」こともたいせつでしょう。では、「経験から学ぶ」とはどのようなことなのでしょうか。「経験から知識を得る」のだとすれば、そのとき「言語」はどのような働きをしているのでしょうか。また、そもそも、経験と言語はどのような関係にあるのでしょうか。この講義では、私たちがほぼ無自覚のうちに日々その中を生活している経験的世界について反省を重ねて

きた、英米系の哲学的探究の足跡をたずねます。前半では、ホプズからジェイムズまでの「経験論」を、後半では、ワイトゲンシュタインを中心とした「言語哲学」の主要な議論を追っていきます。哲学の予備知識をもっていなくてもかまいません。経験と言語について根本から問い直し、現代社会の多様な問題を考える手掛かりにしたい方々に、幅広くお聴きいただければ幸いです。

身近なネットワークサービス('16) 専門科目

放送大学准教授 はだ よしあき
(情報) **葉田 善章**



葉田善章 准教授

この科目は、コンピューターどうしをつなぐネットワークによって実現されるようになったサービスについて考えることがテーマです。ネットワークには、PCだけでなく、スマートフォン、タブレットなど、さまざまなコンピューターが接続されるようになりました。さらに、家電、自動車といった、私たちの生活で使う身近なモノに搭載されたコンピューターのネットワーク接続が実現されつつあるほか、センサーを接続した小型コンピューターによって現実世界の情報をネットワークに

反映することも可能になりつつあります。授業では、ネットワークのサービスを支える通信の基礎から始め、ネットワークによるコンピューター利用形態の変化、家庭でのネットワーク利用、モノのインターネット、自動車をとりまく話題、サービス高度化に関する話題などを取り扱います。ネットワークにさまざまなモノが接続されることで実現できること、私たちの生活がどのように変わるかを、受講生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

社会福祉と法('16) 総合科目

放送大学教授 おおそね ひろし
(生活と福祉) **大曾根 寛**



大曾根寛 教授

この科目は、社会福祉と法がどのような関係にあるのかを考えることを目的としています。社会福祉の領域において、法制度の中核にある「基本的人権」がどのように尊重されるかという観点から、市民の立場で学ぶのはもちろん、社会福祉にかかわる事業者、専門職、行政機関、司法機関、立法機関の役割と責任という観点からも学習します。そのために、人権理念と社会福祉の関係性を再検討するとともに、それを基礎に、財産侵害、介護事件、虐待、差別など具体的な問題に

関する議論をし、かつ実践的な課題にも応えようとしています。ですから、この科目は、学問の上では、社会福祉学と法律学をまたぐものではありますが、関係するいくつかの専門科目を修得した方が、複眼的な視点から学ぶ応用編「総合科目」として位置付けられています。といっても、この教材では多くの事例を素材としていますので、福祉職、医療職、法律職などの関連職種だけでなく、一般市民にも大いに役に立つものとなるでしょう。

道徳教育の理念と実践('16)

昭和女子大学大学院教授 おしたに よしお
(放送大学客員教授) 押谷 由夫



押谷由夫客員教授

科学技術や経済等の発達によって、私たちの生活は格段に便利になっています。しかし、何かが足りません。心の安定・豊かさです。人類は生活の豊かさを求めて精神的安定・豊かさを失っていくのでしょうか。生活の豊かさとの安定・豊かさをどのように両立させていくのか。人類に突き付けられた最大の課題であるといっていると思います。本講義は、この課題を解決できる子どもたちを育てるには、どのようにすればよいのかを、道徳教育の側面から

考えようとするものです。道徳教育改革は世界的傾向です。現在文部科学省では、道徳教育の抜本的改善・充実に取り組んでいます。その切り札となるのが「特別の教科 道徳」です。道徳教育とは何なのかを再度確認しながら、教育学的、心理学的、歴史的、行政的視点等を踏まえて、特に国際的視点から我が国の道徳教育の在り方について一緒に考えようではありませんか。それは、あなた自身の生き方を考えることにもなります。

データベースと情報管理('16)

放送大学教授 やぎぬま よしとも
(情報学プログラム) 柳沼 良知

放送大学教授 みわ まきこ
(情報学プログラム) 三輪 眞木子



柳沼良知教授



三輪眞木子教授

私たちの周辺には様々なメディアを通じて多様な情報があふれかえっている。このような社会に暮らす私たちにとって、情報を効率的・効果的に管理、利用することは仕事上のみならず娯楽や日常生活を含むあらゆる社会活動において必要不可欠となっている。このため、この授業では、「データベース」による「情報管理」に焦点を当てて、さまざまな形態の情報を効率的・効果的に管理するためのデータベース技術を取り上げる。具体的には、多様な形態の電子情報を効

果的・効率的に活用するために必要な知識と技術の習得と、テキスト・画像・音声・映像を含むマルチメディア・ドキュメントの電子化・蓄積・組織化・検索を含むデータベース技術の習得を目指す。この授業の受講を通して、データベースと情報管理に関する最新の知見を得た受講者が、情報社会から知識社会への変化に寄与するような新たな研究・開発の課題を発見し、それに取り組むことを期待したい。

地球史を読み解く('16)

東京工業大学特命教授 まるやま しげのり
(放送大学客員教授) 丸山 茂徳



丸山茂徳客員教授

日本人研究者を中心にした計画的な地球史研究が1990年代に始まり、既に20年以上が経過した。チャールズ・ライエルの「地質学原理(1830-1833)」以降、様々な研究者による膨大な数の論文が発表され、地球史を謳った書物が出版されてきたが、46億年の地球史全体を俯瞰し、そして、宇宙の変動の中で地球がどのようにふるまい、生命が生まれ進化してきたかを十分な証拠に基づいて説明したものはほとんどない。本講義では、俯瞰科学に基づき、地球史ならびに生命史解読の理解の中核として、「地球史20大事件」を抽出することから始

めている。「地球史20大事件」とは、無数にあった地球のイベントの中から、特に重要性の高いイベントを抽出しまとめたものである。これらのイベントが未来を含む地球史においてどのような意味をもつのか、そのような変化を起こしたメカニズムがどのようなものだったのか、そして、その後の歴史にどう変化を与えたのかを、システム変動という概念を適用することによって、より分かりやすく解説している。大学院講座ではあるが、特別な専門知識を持たなくとも十分理解できるようなわかりやすさを心がけて制作した。

キッズスクウェア(託児所)で一時預かり割引サービス

学習センター支援室



株式会社アルファコーポレーションとの協定により、同社が経営する託児所で学生証の提示により一時預かりの割引サービスが受けられるようになりました。各キッズスクウェアで放送大学学生証を提示することにより、割引サービスを受けることができます。是非ご活用下さい。

キッズスクウェアについて

対象年齢 0歳(3ヶ月)～小学6年生

ご予約 前営業日の16時まで
※一部施設は異なります。

営業時間 8:00～22:00
※予約に応じて変更します。

割引対象となるキッズスクウェアの所在地

関東エリア
東京ドームホテル(水道橋駅)
六本木ヒルズ(六本木駅)
アークヒルズ(六本木一丁目駅)
丸の内東京ビル(東京駅)
丸の内永楽ビル(大手町駅)
東京スクエアガーデン(京橋駅)
有明セントラルタワー(国際展示場正門駅)

西日本エリア
ハービスOSAKA(梅田駅)
京都ホテルオークラ店(市役所前駅)
中之島フェスティバルタワー(肥後橋駅)
帝国ホテル大阪(桜ノ宮駅)
福岡天神南(渡辺通駅)

一時預かり料金 ※施設により異なりますのでご予約時にご確認ください

		一般 ※入会金・年会費不要	放送大学の学生証提示で
基本料金 (30分単位)		1,250円(税別)	10% OFF
時間割増料金 (30分単位)	早朝 7:00～9:00 夜間 18:00～22:00	350円(税別)	
	深夜 22:00～7:00	750円(税別)	

□**予約** / 前営業日16:00までにお申込みください。受付に約10分要します。ご予約時間を含んでお申込みください。当日のご利用申込みは安全管理上お断りすることがございます。あらかじめご了承ください。※一部施設は申込期限が異なります。 □**利用可能時間** / 8:00～22:00まで。※最小時間2時間以上(以降30分単位で承ります。) □**精算方法** / 予約時間より遅れてのお迎えは保育終了時間で、早くお迎えに来られた時は予約時間で精算いたします。 □**キャンセル・予約時間変更** / 前営業日16:00までにご連絡ください。以後のお申し出の場合、ご利用されたものとしてキャンセル手数料(予定額の100%)を申し受けます。 □**お持ち物** / 身分証明書(免許証または健康保険証)および学生証、おむつ、お着替え、ミルク、哺乳瓶、お食事、おやつ、飲み物など。ミルクのお湯はご用意しております。 □**ご注意** / 体調不良の場合には、お受けいたしかねますのでご了承ください。



株式会社アルファコーポレーション <http://www.alpha-co.com/>

受付センター TEL:0120-086-720 平日 9:30～17:30 土・日・祝・年末年始・お盆除く



2015(平成27)年度放送学位記授与式について

総務課

2015(平成27)年度放送学位記授与式の日程が次のとおり決まりましたので、お知らせいたします。

日時 : 2016年3月26日(土) 午前11時00分から
場所 : NHKホール(東京都渋谷区神南2-2-1)

編集後記

今回の特集は来春から導入される教養学部の新しいカリキュラムの紹介です。大きく、基礎リテラシー科目である基礎科目と専門性を磨くコース科目にわかれます。さらにコース科目はそれぞれ初級、中級、上級に分類されナンバリングされます。今回の改正で行われたのは少し難しい言葉で言えば、授業科目の構造化と系列化です。構造化とは学習する内容の関係性を示したもので科目区分にあたり、系列化はそれをどの順番で学習するかを示したもので、ナンバリング制にあたり、各自の履修計画の目安として参考になると思います。みなさん一人一人のニーズに合った科目選択をして、学問を楽しんで学んでください。我々教職員も全力で応援します。(編集委員・芝崎順司)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2015年度)

委員長	教授	岸根 順一郎
委員	教授	井出 訓
	教授	御厨 貴
	教授	島内 裕子
	准教授	岡崎 友典
	准教授	芝崎 順司
	准教授	安池 智一
オブザーバー	副学長	小寺山 亘
編集事務担当		総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369